

新連載

「会話」が生まれる



考案・監修／井上由季子

グラフィックデザイナー。香川県三豊市で「モーネ工房」を主宰。コミュニケーションを大切にした創作活動やデザインで、人と人をつなぐ。新聞紙を材料にした「切り紙カレンダー」は病院や介護施設など全国に広がりを見せている。著書に『老いのくらしを変えるたのしい切り紙』（筑摩書房）など。

新聞切り紙カレンダー

新聞紙のカラーページから好きな色や模様を選んで、思い思いに形を切り出す「切り紙カレンダー」。制作過程から、利用者との「会話」が生まれます。この制作に初めて挑戦する施設の取り組みを、連載でご紹介します。

撮影協力／医療法人幸信会 介護老人保健施設あだたらデイケア

カレンダー台紙はレクリエのサイトからダウンロードできます。詳しくはp.122をご覧ください。
※台紙は、モーネ工房・井上由季子氏によるオリジナルデザインです。

3月 たんぽぽ



／ 私たちが作りました！ ／



4月 てんとう虫



新聞切り紙は、

作品を作るためではなく

その時間に生まれる楽しい「会話」のために

井上由季子さん

新聞切り紙をはじめたのは、母が介護施設に入所したことがきっかけでした。母との思い出を切り紙にしてはがきを送り、温かなコミュニケーションにつながりました。その後、母の入所で一人暮らしになり、時間を持て余すようになった父に切り紙を勧めると、初めは拒否。しかし、釣りが趣味だった父は、やがて魚の切り紙に目覚め、娘である私と切り紙を通じて対話をするようになりました。くる日もくる日も新聞紙から魚を切り抜く父の姿と生まれた切り紙は、「切り紙」の持つ力を私に教えてくれました。

新聞切り紙のカレンダー作りは今、全国の介護施設などに広がっています。作品を作るためではなく、その時間に生まれる楽しい「会話」のために。

新聞切り紙に「うまい下手」はありません。「切り絵」ではなく、「切り紙」と呼んでいるのはそのためです。みんなそれぞれ違う切り紙ができていいのです。そこに人それぞれの想いが詰まっているのですから。

手を動かす時間、切り紙を見て味わう時間、そして何より、そこから生まれる「会話」を楽しんでもらいたいと思います。

切り紙カレンダーのちょっとしたコツ

モチーフは誰もが知っている シンプルなものに

季節のもの、思い出話に花が咲きそうなもののなかから、作りやすいシンプルなものを選びます。

介護者の皆さんがまず 作ってみてください

切り紙を知るために、介護者自身ที่まず作ってみてください。新聞紙が色紙よりも豊かな材料になることに気づくためにも。会話をしながら切ったり、貼ったり。介護者が切り紙の楽しさを体験することで、利用者への声かけが増えると思います。

「うまく作る」ことは 求めません

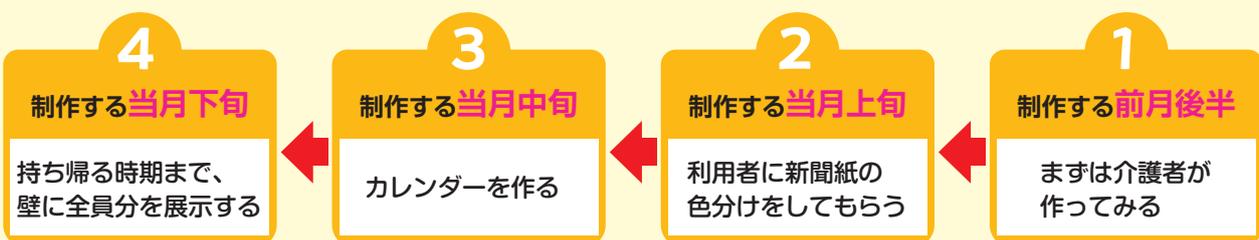
大切なのは「うまく作ってもらおう」としないこと。どんな仕上がりに、作った人の個性が表現されています。「みなさん、それぞれでいいんです」と何度も声かけしてください。

ほめようとしなくてください

利用者に声かけする際、それぞれに感じた言葉を伝えてください。切り紙を見て、きれいな色だと感じたら、「この色、すごくきれいですね」。あっと驚く部分を切り取っていたら、「ここを見つけたんですか！ おもしろいですね」。何かわからない時は、「これは何ですか？」と素直に聞いてみてください。そこから広がる、十人十色の会話を楽しんでもらいたいと思います。

カレンダーを作る手順の例

手順の一例を紹介します。これを参考に皆さんの施設に合った進め方を見つけてください。



介護者が切り紙カレンダーを作ってみました!

デイケアのレク担当の介護者6名が、まずは実際に切り紙をしました。作ってみたからこそ、切り紙の楽しさを知り、利用者が作る時のポイントなどに気づくことができました。



この辺り、
使えそう

モチーフを決めてから まずは新聞紙を色分け

事前に介護者でどんなモチーフがいいかを話し合いました。季節感はもちろん、利用者になじみのあるものや作りやすい形を重視して、「てんとう虫」に決定。新聞紙を持ち寄り、カラー面の色分けから取りかかりました。使えそうな部分をはがき程度のサイズに切り出し、黒、茶、赤、黄、緑、青などにざっくり分けます。



初めは、どう作ったら「てんとう虫」に見えるのか戸惑いもありましたが、試行錯誤するうちにイメージができていきました。

新聞紙がきれいな色紙に。好きなものを選んで使います。



羽は体と同じ形に
切って真ん中で切ると
簡単かも

でき上がり

てんとう虫の体や模様を 切り出して台紙に貼る

選んだ新聞紙の部分から、てんとう虫の体を切り出します。制作を進めるうちに、自分たちが初めに戸惑ったように、利用者もてんとう虫をイメージするのに時間がかかったり、どこから取りかかっていいのかわからなかったりするかもしれないと思い、介護者の作品を見本として見せることに。また、初めて取り組む制作であることから、基本の作り方をおおまかに決めて、利用者の作りやすさを大切にしました。



5・6月号では利用者の制作の様子をお届けします。

色味や貼り方などで作品に違いが出て、介護者同士でお互いの作品について会話が弾みました。

「会話」が生まれる

新

聞

切り紙カレンダー



考案・監修／井上由季子

グラフィックデザイナー。香川県三豊市で「モーネ工房」を主宰。コミュニケーションを大切にした創作活動やデザインで、人と人をつなぐ。新聞紙を材料にした「切り紙カレンダー」は病院や介護施設など全国に広がりを見せている。著書に『老いのくらしを変えるたのしい切り紙』（筑摩書房）など。

新聞紙のカラーページから好きな色や模様を選んで、思い思いに形を切り出す「切り紙カレンダー」。制作過程から、利用者との「会話」が生まれます。この制作に初めて挑戦する施設の取り組みを、連載でご紹介します。

撮影協力／医療生協さいたま生活協同組合 介護老人保健施設みぬま イラスト／モリナオミ

カレンダー台紙はレクリエのサイトからダウンロードできます。詳しくはp.122をご覧ください。
※台紙は、モーネ工房・井上由季子氏によるオリジナルデザインです。

5月 こいのぼり



6月 梅雨



カレンダーを作る手順の例

手順の一例を紹介します。これを参考に皆さんの施設に合った進め方を見つけてください。

介護者が作る様子は、レクリエ3・4月号で紹介しています。レクリエWEBサイトからもご覧いただけます。(4月1日公開)



今回はここ!



介護老人保健施設みぬまでは

こんなふうには切り紙をしました!

利用者と一緒に5月のモチーフを決めることからはじめました。後日、利用者が作る際に何をすののかわかりやすいよう、制作する月のイメージを引き出し、決まったモチーフをまず介護者が作ってみました。

1

利用者の思い出を引き出し、モチーフを決める

「新聞紙を使ってカレンダーを作る」と説明しても、これから何をするか利用者が想像しづらいため、まずはその季節の思い出を引き出しながら話を広げました。そのなかから出てきたこいのぼりを切り紙にすることに決め、さらに色や形などを利用者から聞いていきました。

ポイント

利用者の思い出をきっかけにし、それを切り紙で表わしてもらうことで、楽しい会話につながります。

その下は赤よね

そうですね！
こいのぼりはどんな色でしょうか？

真鯉は黒

5月といえば
どんなことを
思い出しますか？

端午の節句ね

こいのぼりかな

例えば、5月のカレンダーの場合、その季節を想起させるイラストや写真を見せながら、どんな季節か、何を思い出すかなど、利用者尋ねます。

2

介護者の作った見本を見せる

介護者が作ったカレンダーの実物を見せながら、新聞紙のカラーページを切り出して、こいのぼりを作ることを伝えます。「新聞紙のここを使いました」「はみ出してもいいですよ」など具体的な話をするので、これから何をするのか利用者のイメージが固まってきました。



介護者が作ったカレンダー

うろこが
ぎっしりだ



私が作ったこいのぼりです。
はみ出すと、大空に泳いでいる
みたいに見えませんか？

こんなふうにするのね

3

モチーフに必要な色を中心に 新聞紙を色分けして切る

新聞紙1日分をそのまま利用者に渡し、そこからモノクロとカラーのページに分けていきます。カラーのページだけがまとまったところで、色を切り出しました。すべての色を探して切り出すには時間が足りず、利用者も何をしているのか混乱してしまうため、モチーフに必要な色を中心に切り出します。

色を分ける



切り出して分ける

赤や青、黒などこいのぼりに使えそうな色を切り出しました。



4

モチーフを切り出して
台紙に貼る

自分の好きな色や模様から、それぞれこいのぼりを切り出していきます。作り方は様々。自分のイメージで切り出す人や、雑誌に載っているこいのぼりを見ながら色や形を作る人、はさみを使うのが難しい人は指で新聞紙をちぎって作りました。作る前に、会話によってこいのぼりのイメージを引き出したことで、「ここはうろこになりそう」などと具体的に想像しながら作り進めることができました。

指でちぎって



慣れるまでは、小さな紙に貼ってからカレンダー台紙に貼る人も。作っているうちに、「はみ出してもよい」「うまく作ろうとしないほうが味が出る」ことがわかってきました。

見本を見ながら



私が作った
こいのぼりです！

7・8月号では、完成したカレンダーの会話の広げ方、鑑賞の楽しみ方を紹介します。

6月は梅雨をテーマに作りました！



「会話」が生まれる

新

聞

切り紙カレンダー



考案・監修／井上由季子

グラフィックデザイナー。香川県三豊市で「モーネ工房」を主宰。コミュニケーションを大切にした創作活動やデザインで、人と人をつなぐ。新聞紙を材料にした「切り紙カレンダー」は病院や介護施設など全国に広がりを見せている。著書に『老いのくらしを変えるたのしい切り紙』（筑摩書房）など。

新聞紙のカラーページから好きな色や模様を選んで、思い思いに形を切り出す「切り紙カレンダー」。制作過程から、利用者との「会話」が生まれます。この制作に初めて挑戦する施設の取り組みを、連載でご紹介します。

撮影協力／医療生協さいたま生活協同組合 介護老人保健施設みぬめ イラスト／モリナオミ

カレンダー台紙はレクリエのサイトからダウンロードできます。詳しくはp.122をご覧ください。
※台紙は、モーネ工房・井上由季子氏によるオリジナルデザインです。

夏の思い出

7月



8月



カレンダーを作る手順の例

手順の一例を紹介します。これを参考に皆さんの施設に合った進め方を見つけてください。

今回はここ!

介護者が作る様子は3・4月号、利用者が作る様子は5・6月号でそれぞれ紹介しています。過去の誌面はレクリエWEBサイトからダウンロードできます。(6月1日公開)



4

制作する**当月下旬**

持ち帰る時期まで、壁に全員分を展示して鑑賞する

3

制作する**当月中旬**

カレンダーを作る

2

制作する**当月上旬**

利用者に新聞紙の色分けをしてもらう

1

制作する**前月後半**

まずは介護者が作品を作ってみる

介護老人保健施設みぬまでは



こんなふうにより、鑑賞しました!



「夏の思い出」をテーマに、まずは利用者に好きなモチーフを決めてもらいました。思い出がそれぞれ異なるように、切り紙も1人ひとり違う作品ができ上がりました。

1

1人ひとりモチーフを決めて新聞紙を切り、台紙に貼る

「作りたいもの」が具体的に想像しやすいように、介護者が写真などの見本を用意して、何を作るか利用者が選びました。モチーフが決まったら、新聞紙の中の好きな色からモチーフを切り出します。「かき氷」の場合は「シロップは何味ですか?」「この色がレモンシロップみたいですね」など声をかけ、対話をしながら進めていきました。

立体感が出るように、新聞紙にシワをつけたまま貼りました。

ポイント

利用者の思い出を引き出し、それを切り紙で表現してもらいます。難しい作業は介護者がサポートし、できるだけ利用者自身で行うことが完成した際の喜びにつながります。



2

でき上がった切り紙から 利用者との会話を楽しむ

作品が完成したら、テーブルを囲んで、介護者が1人ひとりの作品を見せながら、「これは〇〇さんが作った作品です」と紹介。「これを作ったのはどうしてですか?」「どこが難しかったですか?」などと話を広げていきました。切り紙を見ながら、ほかの利用者からは「昔はこうだった」といった思い出や、「おいしそうで食べたくなってきた」「細かくてすごい」など、お互いをほめ合うような言葉が多く聞かれました。



甘そうなスイカですね。
どんな思い出
ありますか?

家族でよく食べたわ。
皮も漬物にして
食べたのよ

普段顔を合わせている間柄でも、1人ひとりから話を聞くことが、お互いを深く知るきっかけになりました。

こんな会話が生まれました

作ったカレンダーをきっかけに、利用者について初めて聞く話題が出てきました。昔の思い出や暮らしについて、話が広がります。



きゅうりもなすもみずみずしいですね。
野菜を作られているのですか?

昔は精霊馬を作って
家に飾っていたから

懐かしい。昔はいつも
お盆に作ったわね

ポイント

切り紙カレンダーは、その形に見える見えないよりも、その時間に生まれる会話を大切に。切り紙を見ながら思い出を楽しく振り返ります。

井上由季子さん流 “ほめようとしなない” 言葉かけのポイント

ほめようとする、どうしても「上手ですね」という言葉しか出てきません。切り紙について会話する時は、介護者が感じた言葉を伝えてください。食べることが好きな介護者なら、「これ、おいそうですね」。おしゃれが好きな介護者なら、「この色合わせが素敵ですね」など。利用者も介護者も「お手本通りにきれいに、上手に作らなければ」と思っている人が多いのです。ほめようせず、感じのまま素直に伝えてみると、十人十色の会話が広がります。

言葉かけの例

- 「ここを見つけたんですか! 面白いですね」
- 「この色、お好きなんですか? お洋服と一緒にですね」
- 「この色がとってもおいそうですね」



3

持ち帰る時期まで 壁に展示して鑑賞する

1人ひとりの作品を壁に貼り出していきました。ずらっと皆の作品が並ぶと、「あれは自分が作った」「ここが大変だった」「ずっと見ていられそう」など利用者同士の会話が活発に。壁に貼り出したことで、個々の作品がより素晴らしく見え、全員で展示を楽しみました。

／ 展示したあと、持ち帰りました！ ／



**新聞切り紙
カレンダーの
作品写真を
募集します！**

皆様の施設で作った「新聞切り紙カレンダー」の写真を、制作時のエピソードを添えてお送りください。レクリエ誌上でご紹介します。応募方法はp.47「レクリエCafé」をご覧ください。

- ※ 応募写真は人物が入っていないものに限ります。
- ※ 応募時に、必ずお名前(事業所名)・ご住所・お電話番号をお書きください。
- ※ 応募が多数の場合、編集部で掲載写真を選ばせていただくことがあります。また、掲載時期についてはお問合せいただいてもお答えできません。あらかじめご了承ください。

「会話」が生まれる

新聞切り紙カレンダー



考案・監修／井上由季子

グラフィックデザイナー。香川県三豊市で「モーネ工房」を主宰。コミュニケーションを大切にした創作活動やデザインで、人と人をつなぐ。新聞紙を材料にした「切り紙カレンダー」は病院や介護施設など全国に広がりを見せている。著書に『老いのくらしを変えるための切り紙』(筑摩書房)など。

新聞紙のカラー面から好きな色や模様を選んで、思い思いに形を切り出す「切り紙カレンダー」。制作過程から、利用者との「会話」が生まれます。この制作に初めて挑戦する施設の取り組みを、連載でご紹介します。

撮影協力／医療生協さいたま生活協同組合 介護老人保健施設みぬま イラスト/モリナオミ

カレンダーの台紙はレクリエのサイトからダウンロードできます。詳しくはp.122をご覧ください。※台紙は、モーネ工房・井上由季子氏によるオリジナルデザインです。

※新聞紙の色分けの仕方については、レクリエ2024年5・6月号をご覧ください。



新聞切り紙カレンダーについて

こんな声がありました！

楽しそうだから
作ってみたい！

利用者の個性が
感じられてよい

作りながら
様々な会話が
引き出せました！

それぞれの作品が
出来上がり
うれしい！



井上由季子さん

一方でこんなお悩みも寄せられました

うーん……

認知症の利用者に
作り方を説明する
のが難しい

利用者に「センスが問われるから
やりたくない」と言われた

「上手に作れる自信がない」
と利用者に言われた

認知症の利用者は
自分でモチーフをイメージ
することが難しい



「認知症の利用者や制作が苦手な利用者」に切り紙は難しい…」

と思っている介護者の方、あきらめずに「抜き型」を使って始めてみませんか？

認知症や制作が苦手な、自分でモチーフをイメージして新聞紙を切り出すのが難しい利用者には、「抜き型」を使ってみましょう。

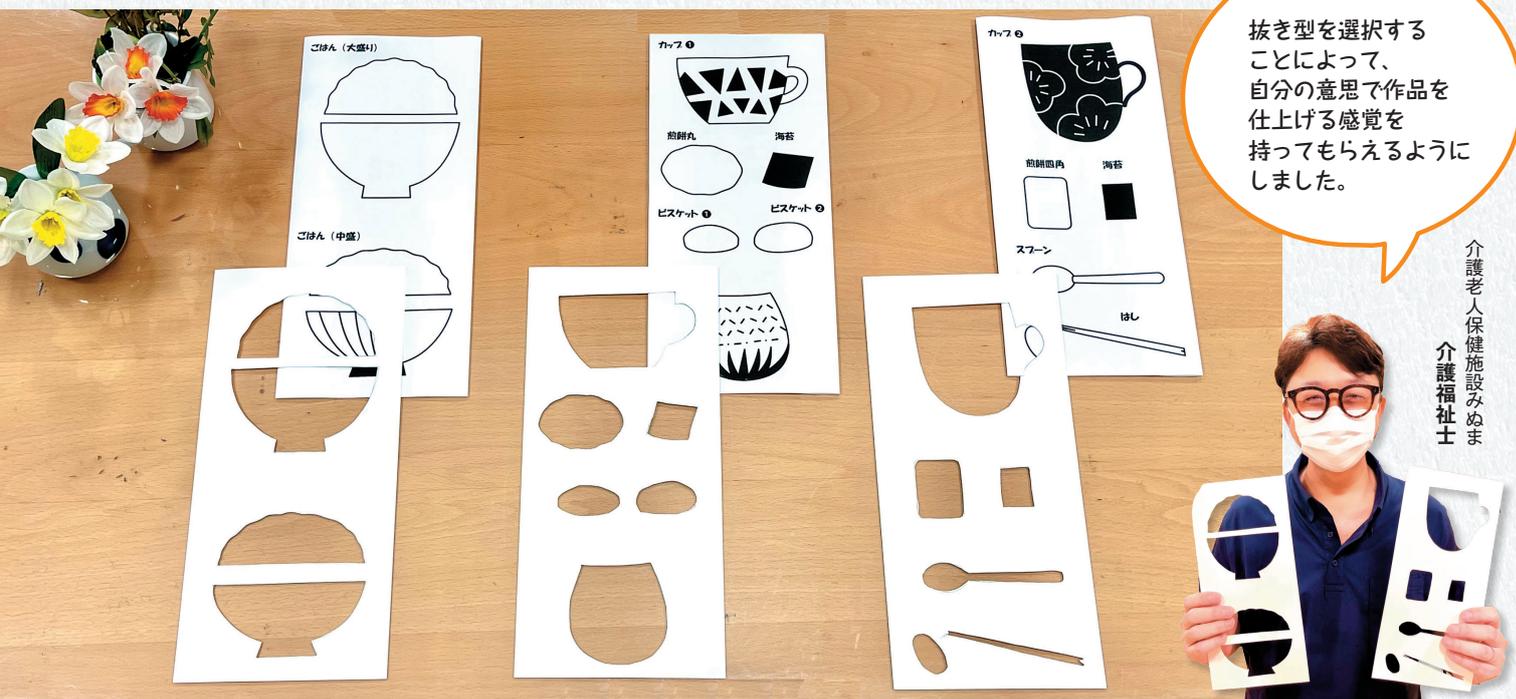


介護老人保健施設みぬまでは抜き型を作って、こんなふうに取り組みました。

1

介護者が「抜き型」を用意する

9月は「茶碗」、10月は「マグカップ」、2種類の抜き型を用意しました。さらに、好みに応じて選べるように、菓子、スプーンなどの抜き型も作製しました。



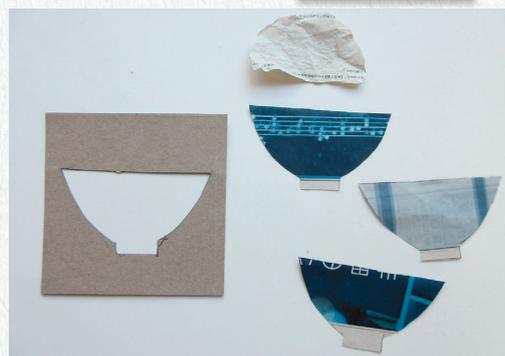
抜き型を選択することによって、自分の意思で作品を仕上げる感覚を持ってもらえるようにしました。

介護老人保健施設みぬま
介護福祉士

介護者が用意した抜き型。バラエティ豊かに揃えました。



「抜き型」を使っても、作る人の個性を引き出すことができます。茶碗の場合、色や柄を何にするのか、ご飯をどのように盛るか、ご飯の上に何をのせるかによっても出来上がりが変わってきます。新聞紙の上に抜き型を置いて動かしながらどんなご飯が好きか、思い出のご飯はあるかなど、制作過程で利用者との「会話」を楽しみながら進めてください。



井上さんが使っている抜き型。利用者に応じて茶碗のみの抜き型でも大丈夫。

2

利用者が 新聞に抜き型をうつす



▲茶碗には新聞紙の青い部分を選びました。

▲ご飯はモノクロ部分を使います。

新聞紙のカラー面を色分けしたのから、利用者が抜き型に使いたい色や柄を選びます。選ぶのが難しい場合は、抜き型を新聞紙の上に置いて「この茶碗にしましょうか」と声かけをしてみてください。決まったら、抜き型をうつしていきます。この時、介護者が作った見本を見せると、利用者がよりイメージしやすくなります。

イメージを
引き出す

言葉かけの例

- 何色の茶碗が好きですか？
- どんな茶碗を使っていましたか？
- ご飯は大盛りにしますか？
普通盛りにしますか？
- 白いご飯にしますか？
色のついたご飯もおいし
そうですね。



3

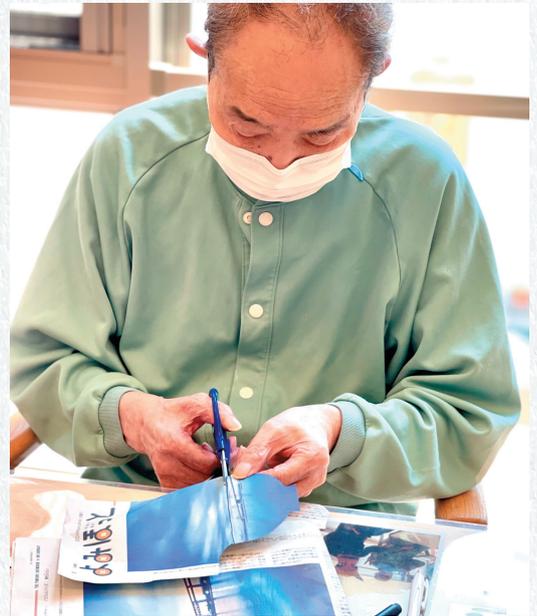
線に沿って はさみで切り出す

型をうつしたら、線に沿ってはさみで切り出していきます。できる人には、茶碗に添える箸や箸置き、ご飯にのせるおかずなども切り出してもらいました。

イメージを
引き出す

言葉かけの例

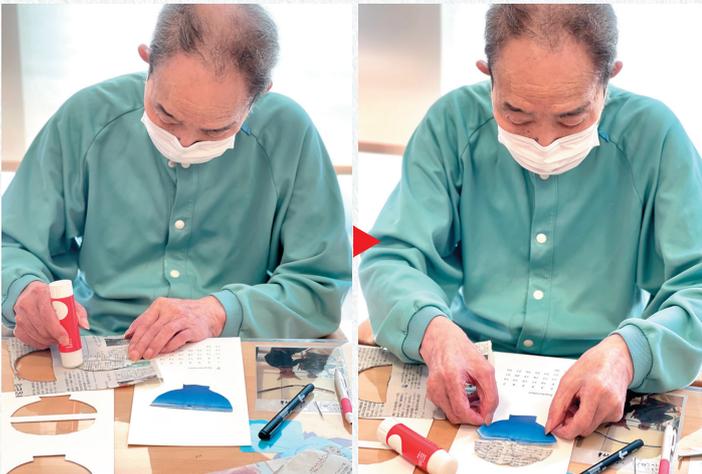
- 山盛りのご飯はどんなおかずと食べたいですか？
- どんな箸を使って食べたいですか？
- 箸置きに箸を置くのもいいですね。



4

モチーフを台紙に貼る

切り出したモチーフをスティックのりで台紙に貼っていきます。ご飯から貼っても茶碗から貼っても大丈夫。ご飯の盛り方や箸の置き方によって、個性が出て、味のある作品が出来上がります。



イメージを
引き出す

言葉かけの例

- OOさんが作ったご飯は、お腹いっぱいになりそうですね。
- ご飯の上にのせた梅干しがおいしそうですね。
- 茶碗に選んだ色や柄が、素敵ですね。

切り紙カレンダー

9月



10月



5

持ち帰る時期まで 壁に展示して鑑賞を楽しむ

一人ひとりの作品を壁に貼り出して展示をしました。自分の作品を見てとても嬉しそうに微笑む姿や、ほかの利用者の作品を見て感想を言う方もいました。今まで作品制作に消極的だった方も、完成した作品に満足し、「また作りたい」と意欲を見せてくれました。

展示のコツ

出来上がった切り紙の世界観を損なわないように画びょうは使わず、壁も紙も傷まないマスキングテープを輪にしたもので壁に貼ります。



新聞切り紙 カレンダーの 作品写真を 募集します！

皆様の施設で作った「新聞切り紙カレンダー」の写真を、制作時のエピソードを添えてお送りください。レクリエ誌上でご紹介いたします。応募方法はp.42「レクリエCafé」をご覧ください。

- ※ 応募写真は人物が入っていないものに限りです。
- ※ 応募時に、必ずお名前(事業所名)・ご住所・お電話番号をお書きください。
- ※ 応募が多数の場合、編集部で掲載写真を選ばせていただくことがあります。また、掲載時期についてはお問合せいただいてもお答えできません。あらかじめご了承ください。